

#964 丁張りを気にせず楽々施工、人手と時間にゆとりが生まれる！



■■ 現場詳細 ■■ 福島県いわき市

水害による被害を未然に防ぐため、堆積土砂を撤去する工事

【施工数量】 範囲：400m 土量：掘削10,000m³

【ソリューション】 Smart Construction Dashboard/Smart Construction Quick3D/viDoc RTK rover

【稼働建機】 D61i

(掲載月：2024年8月)

限られた人員に対応したい！ICTブルドーザー



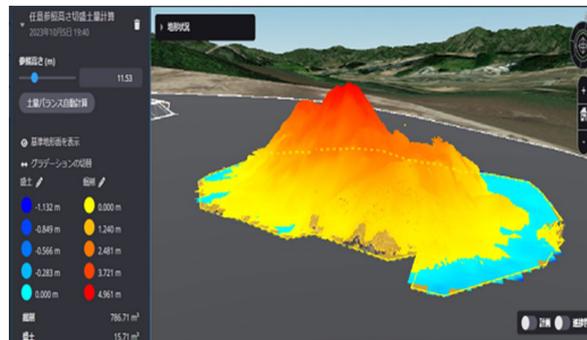
■■ 導入経緯 ■■

(有)カワダイ建設 専務取締役 大和田直希 さん

当社ではICT施工に取り組むのは今回の現場で3度目です。この現場は、2019年に発生した台風19号の災害時で堆積した土砂の撤去開削工事を行いました。今回はその工事の2期目です。当時の整地作業には従来のブルドーザーを使用しましたが、難しいブレード操作に手直しが多く大変でしたので、2期目の本工事では、ICTブルドーザーを導入して施工したいと以前より考えていました。

また、慢性的な人員不足で現場に配置できるオペレーターも限られていましたので、レバー操作のみでブレードが自動制御され、簡単に運転できるICTブルドーザーはとても魅力的で使わない手はないと導入を決断しました。

Smart Construction Quick3Dで手軽に土量計測



■■ 導入効果 ■■

(有)カワダイ建設 専務取締役 大和田直希 さん

従来のブルドーザーでの施工は、トンボ丁張りを設置する必要があり、オペレーターは、周りの作業員にも注意をし、トンボ丁張りをたおすと再設置を待つようになります。今回のICTブルドーザーでは、トンボ丁張りの設置が必要なく、周りに作業員も配置しませんでしたので、前後の走行だけの操作に集中することができ、安全性も作業効率も上がりました。神経を使ったブレード操作がないため、オペレータの精神的な疲労も見られずとても良かったと思います。今回併せてSmart Construction Quick3Dを活用し、搬出のために集積した土砂の計測を試してみました。土量を知ること、次の日のダンプの台数を決めるのに役立つと思いました。これからも新しい技術を積極的に活用したいと考えています。

(有)カワダイ建設 様

2003年創業

これからも新しい技術を積極的に取入れ地域貢献していきます。



専務取締役 大和田直希 さん